

達目洞のヒメコウホネとは？

金華山東山麓の達目洞に自生するヒメコウホネは、環境省レッドデータブックの絶滅危惧Ⅱ類に指定される貴重な植物です。市は「岐阜市自然環境の保全に関する条例」において貴重野生動植物種に指定し保護しています。

ヒメコウホネには、葉が小型で丸い「東海型」と、葉がやや大型で卵形をした「西日本型」がありますが、本来のヒメコウホネはこの東海型を指しています。

ヒメコウホネ東海型の自生地は、達目洞の他には、三重県内の一地域に現存するのみで全国的にも非常に貴重な場所となっています。開花時期は4月から10月です。

自然の宝庫！達目洞

昔ながらの里山の自然を残す達目洞には、金華山を水源とする清らかな水が湧き出ています。湧き水は逆川(さかしまがわ)となり、この清流にヒメコウホネが可憐な黄色い花を咲かせています。

達目洞には、ヒメコウホネのほかにも、クロオバボタルやモリアオガエル、ナガボノアカワレモコウ、ノハナショウブなど多くの貴重な動植物が生息・生育しており、市内で最も生物多様性が高く、重要な自然環境を有する地域といえます。



ヒメコウホネ保全の経緯

平成4年、植物研究家の故・成瀬亮司先生により、達目洞に自生するコウホネ類が『ヒメコウホネ』であることが確認されました。以降、成瀬先生の指導のもと、ヒメコウホネ保全活動が活発に行われるようになり、岐阜市もこの活動を支援、現在も市民団体や県との協働により継続的に保全活動を実施しています。

平成16年4月には「岐阜市自然環境の保全に関する条例」に基づき、**ヒメコウホネを貴重野生動植物種に指定して採取を禁止**しました。また、平成19年3月には同条例に基づき**ヒメコウホネ自生地を特別保全地区に指定し、開発行為等を規制**しました。

岐阜市自然環境の保全に関する条例が指すもの

■自然環境保全活動

自然環境の保全

- ★貴重な動植物種の保全
- ★生物の保全・生育環境の保全
- ★生物多様性の保全

自然環境の創造

- ★自然とのふれあいの場の確保
- ★緑化の推進

■市民との協働により実施



■素晴らしい自然を未来へ！

人と自然の共生する環境都市・岐阜市

- ★豊かで快適な自然環境の確保
- ★人間の生存基盤の確保
- ★豊かな文化基盤の確保
- ★社会、経済、教育に有用な価値の確保

達目洞の貴重な動植物は、金華山東山麓一帯の豊かな自然に支えられています。この素晴らしい自然環境を皆で守り育て、未来の子どもたちに伝えましょう！

だちぼくぼら

達目洞 ヒメコウホネ 特別保全地区

「平成の名水百選」

さかしまがわ
達目洞(逆川上流)

平成20年6月5日環境省選定



岐阜市自然環境の保全に関する条例による自然環境保全地区(特別保全地区)の指定

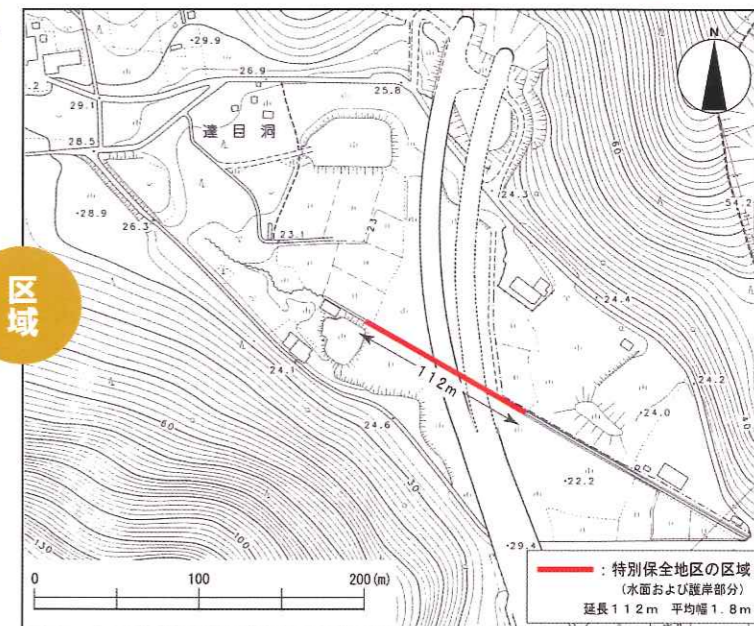
平成19年3月15日指定

自然環境保全地区の区分
特別保全地区

自然環境保全地区名
達目洞ヒメコウホネ特別保全地区

指定区域
岐阜市達目洞6番2地先から達目洞18番1地先までの水路及び岐阜市達目洞21番

この条例および地区指定に関するお問い合わせ
〒500-8720 岐阜市神田町1丁目11番地
岐阜市 自然共生部 自然環境課
TEL058-265-4141



達目洞 MAP

金華山の東山麓に、ひっそりと広がる里山、達目洞(だちぼくぼら)。清らかな湧き水が創り出す里山の自然は、希少な動植物の隠れ里です。なかでも、達目洞に自生するヒメコウホネは、「岐阜市自然環境の保全に関する条例」に定める貴重野生動植物種に指定されています。美しい岐阜の原風景、達目洞の自然を、ぜひとも未来に伝えていきたいものです。



公共交通機関によるアクセス
 ●JR岐阜駅よりタクシーで15~20分
 ●名鉄岐阜駅よりバス、最寄りバス停迄20~25分
 岐阜バス日野市橋線・日野本郷下車、徒歩1.4km
 岐阜バス大洞団地線(北一色経由)、岐阜関線など日野橋下車、徒歩約3km
散策コース案内
 ●橙色案内線=おすすめ観察路
 ゆっくり歩いて一周約25分。妙見宮立寄り35分。

ヒタキ科 **キビタキ**
 四月頃、渡ってくる夏鳥。ヒューイ、ビョーイ、フィビリフィビリと多彩な声で鳴く。金華山では唯一増えている鳥類といわれる。



トンボ科 **ウスバキトンボ**
 亜熱帯以南が故郷といわれているが、短い幼虫期間(4週間)なので世代交代をくり返しながりに北上する。●出現/お盆頃、水田上空を群れて舞っている。



キンポウゲ科 **キツネノボタン**
 よく似た毛の多いケツネノボタンとともに、休耕田や畦などに生える多年草。●花期/4月~5月
 コンバイトウのような果実ができる。



ホタル科 **コクロオバボタル**
 湿った草地に生息する体長7ミリ前後の幼虫が光るホタル。成虫は光らない。●出現/達目洞では6月頃発生。



クサリヘビ科 **マムシ**
 カエルやネズミを狙って、田畑のまわりや林地に生息する。体色は艶のない赤褐色で左右に楕円型の暗色斑があり、頭は三角形に近い。うっかりふんでしまった時にかまれることがあるため、達目洞を歩く時は長靴、長ズボンで!



カワトンボ科 **オオカワトンボ**
 他の岐阜市周辺の洞の奥などで見られるニシカワトンボにそっくりだが、こちらは開けた清流に生息する。●出現/5月



アオガエル科 **モリアオガエル**
 樹上に泡状の卵を産むことで有名な森にすむアオガエル。達目洞には沼地にすむシュレーゲルアオガエル(日本産)もいる。



シソ科 **イヌゴマ**
 湿地に生える多年草。果実がゴマに似ているが、利用できないことが名の由来。●花期/6月~7月



ツツジ科 **モチツツジ**
 アカマツ林の林床に多い半落葉低木。名は花の柄や萼が粘つくことによる。葉や芽もやや粘る。●花期/3月~5月



バラ科 **ナガボノアカワレモコウ**
 水田や水路周辺の湿地や湿った草地に生える多年草。名前のとおり、普通のワレモコウに比べ、花穂が長い。達目洞を代表する植物のひとつ。●花期/9月~11月



マメ科 **クララ**
 日当たりの良い山野の草地に生える多年草。名は目がくらむほど苦い根の汁から「くらら草」と呼ばれたことによる。●花期/6月



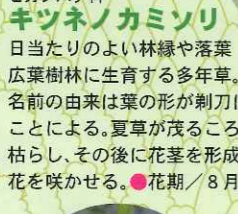
シソ科 **ホトケノザ**
 草地や道端に生える二年草。対生する葉を蓮座に見立てた名。●花期/3月~5月
 春の七草のホトケノザはキク科オオニタビラコ。



サトイモ科 **カラスビシャク**
 耕作地脇などの草地に生える多年草。サトイモ科に特有の仏炎苞(ぶつえんほう)を鳥の柄杓に見立てた名。●花期/5月~8月



ヒガンバナ科 **キツネノカミソリ**
 日当たりのよい林縁や落葉広葉樹林に生育する多年草。名前の由来は葉の形が剃刀に似ることによる。夏草が茂るころ葉を枯らし、その後には花茎を形成して花を咲かせる。●花期/8月



スイレン科 **ヒメコウホネ**
 平成4年に、故・成瀬亮司先生がヒメコウホネであることを発見。後に、西日本を中心に分布する通称ヒメコウホネは別種である事が判明。現存する生育地は全国で二ヶ所のみ。●花期/4月~10月



ミソハギ科 **ミソハギ**
 山野の湿地に生える多年草。お盆頃に咲き仏前に供える。名は祭事に用い、稞(みそぎ)萩から? ●花期/7月~9月



ヒルムシロ科 **フトヒルムシロ**
 山間・丘陵地の水質が良好な池沼や水路に生える多年生の水生植物。葉には水中に発達する枕水葉と水面に浮かぶ浮葉がある。●花期/4月~8月



アブラナ科 **ミスタガラシ**
 水湿地に生える多年草。近年では珍しくなった。白い清楚な花を咲かせる。●花期/5月



アヤメ科 **カキツバタ**
 水湿地に生える多年草。花弁の中央基部に白色の斑紋がある。一般的にこの仲間、ひとまともにアヤメと呼ばれることが多い。●花期/5月



アヤメ科 **ノハナショウブ**
 湿地に生える多年草。花弁の中央基部に黄色の斑紋があるのがカキツバタとの見分けポイント。●花期/6月



達目洞の田植え



懐かしく、美しい。達目洞は、ぎふの宝物です。

至 妙見宮

妙見宮
 この地を終の住処と決めた臼井岩入が、心の拠り所として建立。妙見菩薩は今も昔も、達目洞を静かに見守っています。



達目洞の新緑と岐阜城遠望



キク科 **ヨメナ**
 山野の湿ったところに生える多年草。この辺りにはよく似たノコンギクも見られる。●花期/7月~10月



アヤメ科 **カキツバタ**
 水湿地に生える多年草。花弁の中央基部に白色の斑紋がある。一般的にこの仲間、ひとまともにアヤメと呼ばれることが多い。●花期/5月

アヤメ科 **ノハナショウブ**
 湿地に生える多年草。花弁の中央基部に黄色の斑紋があるのがカキツバタとの見分けポイント。●花期/6月



岐阜環状線(点線は高架部分)

至 岩戸トンネル